

## 第74回舞踊学会大会

■日時：2022年（令和4年）11月19日（土）・20日（日）

■会場：聖心女子大学 3号館・宮代ホール

■大会テーマ

「ダンス教育をめぐる境界を超え、未来へつなぐ」  
 -多様な身体表現・コミュニケーション・SDGs教育（ESD）-

### 1. 企画の趣旨

本大会では、幼児から高齢者に至る人間の生涯を視野に入れたダンス教育を取り上げ、これまでダンス教育が抱えてきた「学校の内と外」「体育と芸術」という2つの境界と、それを越えた往来と拡張に向けて、「多様な身体表現・コミュニケーション・SDGs教育（ESD）」から、大会テーマ「ダンス教育をめぐる境界を超え、未来へつなぐ」を設定した。

### 2. 大会プログラム

#### (1) 全体

1日目：11月19日（土）	2日目：11月20日（日）
9：30 受付開始 【3号館1階 宮代ホール前ロビー】	9：30 受付開始 【3号館1階 宮代ホール前ロビー】
10：00～12：00 一般研究発表 【3号館3階332, 4階342】	10：00～12：00 一般研究発表 【3号館3階332, 4階342】
12：00～13：30 昼食 【参加者控え室：3号館4階343, 344】 12：10～13：30 理事会【3号館3階334】	12：00～13：30 昼食 【参加者控え室：3号館4階343, 344】
13：40～14：30 総会 【3号館1階 宮代ホール】	13：30～16：00 シンポジウム 「ダンス教育をめぐる境界を超え、未来へつなぐ」 多様性とダンス、障がい児の身体表現遊び、学校におけるダンス、芸術と教育、多様な立場からテーマに迫る 【3号館1階 宮代ホール】
14：45～17：00 基調講演&鼎談 「SDGsを実現する教育としてのESDの真髄：2050年の教育への再想像」 永田 佳之（聖心女子大学）  「基調講演を受けダンス教育につなぐ」 永田佳之＋貫成人（専修大学）＋ 村田芳子（司会，平成国際大学） 【3号館1階 宮代ホール】	



写真1 運営の様子



写真2 受付の様子

(2) 一般研究発表

23演題（発表15分、質疑5分）

■一般研究発表 1日目（11月19日（土））会場①<3号館3階332>

時間	発表タイトル・発表者	座長
10:00-10:20	3次元映像技術を活用したダンス教材の作成に向けた実験と課題 ーダンスにおける3次元映像の再現性ー 鈴木純（東北文教大学短期大学部）	寺山由美
10:20-10:40	オノマトペを用いたダンス指導の有効性 藪井琴子（岡山大学大学院）	
10:40-11:00	追手門学院高等学校表現コミュニケーションコースの実践と 成果からみるダンス教育の可能性 福岡小百合（追手門学院中等高等学校）	
11:00-11:20	日本におけるインクルーシヴ・ダンスの発展背景と今後の課題 内堀愛菜（日本女子体育大学大学院）	福本まあや
11:20-11:40	ラオスにおける「コンテンポラリー（ダンス）」ジャンルの 形成に関する人類学的研究 大村優介（東京大学大学院）	
11:00-12:00	踊ることのもたらす自己成長と啓発の可能性 ：ベリーダンスとヒップホップの事例から 中里有輝子（社会人 一般）	

■一般研究発表 1日目（11月19日（土））会場②<3号館4階342>

時間	発表タイトル・発表者	座長
10:00-10:20	京劇基本技法の静態表現にみる中国伝統の身体観 富燦霞（明治大学）	波照間永子
10:20-10:40	武術における風格の定義 島津京（専修大学）	
10:40-11:00	アーティストによる民俗芸能の媒介 ーコロナ禍における朽木古屋六斎念仏踊りー 武藤大祐（群馬県立女子大学）	
11:00-11:20	19世紀のロシアバレエの発展における独立した ディヴェルティスマン公演の影響 大林貴子（早稲田大学大学院）	海野敏
11:20-11:40	大正期帝劇の「19世紀末バレエ」 山田小夜歌（京都精華大学）	
11:00-12:00	『エクセルシオール』のコレオグラフィーにおける 静止と運動の美学 古後奈緒子（大阪大学人文学研究科）	

■一般研究発表 2日目(11月20日(日))会場①<3号館3階332>

時間	発表タイトル・発表者	座長
10:00-10:20	民族舞踊の教材活用の可能性を探る2 -家庭分野「衣文化」の体験として- 弓削田綾乃(和洋女子大学)	八木ありさ
10:20-10:40	運動動作の「見取り」に関する研究 -ダンス指導の検討へ向けた基礎調査- 河合史菜(岡山理科大学)	
10:40-11:00	ニュージーランド乳幼児教育カリキュラムから考える言葉と表現 川瀬雅(環太平洋大学次世代教育学部)	弓削田綾乃
11:00-11:20	アウトリーチから児童生徒の文化芸術鑑賞機会への発展 -アウトリーチをアウトリーチで終わらせない- 児玉孝文(宮崎大学産学・地域連携センター客員研究員) 矢吹修一(いわき芸術文化交流館アリオス企画制作課長)	
11:20-11:40	保育者の身体スキル育成のために -舞踊家の教育プログラムを応用する意義- 白澤舞(長野県立大学)	

■一般研究発表 2日目(11月20日(日))会場②<3号館4階342>

時間	発表タイトル・発表者	座長
10:00-10:20	中国における舞踏(BUTOH)の受容 -舞踏家桂勘(1948~)の活動に着目して- ウンドーリル(お茶の水女子大学大学院)	貫成人
10:20-10:40	O. Naharin作品『Sadeh 21』を「読む」上での複数の視点 福本まあや・近藤いちご(お茶の水女子大学)	
10:40-11:00	舞踊と日常のmovementの差異について -メルロ=ポンティの身体図式による試論- 柿沼美穂(国立環境研究所)	
11:00-11:20	人口転換,生活史戦略と舞踊 齋藤尚大(横浜カメラアホスピタル)	松澤慶信
11:20-11:40	舞踊と民主主義~関係性を探る試み 阪本洋三(近畿大学文学部芸術学科舞台芸術専攻)	
11:00-12:00	ロシアバレエとウクライナ戦争 斎藤慶子(大阪公立大学)	



写真3 一般研究発表会場の様子



写真4 一般研究発表の様子

### (3) 特別企画

#### ■基調講演 & 鼎談

11月19日（土）14：45～17：00 3号館1階 宮代ホール

##### ●基調講演

「SDGsを実現する教育としてのESDの真髄：2050年の教育への再想像」

ゲスト講師：永田 佳之（聖心女子大学 現代教養学部 教育学科教授）

基調講演では、この分野において国際的に活躍で、本大会の会場校でもある聖心女子大学教授の永田佳之氏をお招きして、ESDの推進に務められてきたご経験をもとに、ESDのエッセンス及びポスト・コロナ時代における表現活動も含めた教育の課題を分かち合い、近未来の教育への想いを語っていただいた。

##### ●鼎談

「基調講演を受けてダンス教育につなぐ」

永田 佳之 + 貫 成人（専修大学） + 村田 芳子（司会、平成国際大学）

鼎談では、基調講演の講師である永田先生にお残りいただき、そこに貫成人氏と村田芳子氏が加わり、基調講演の内容を受けて3人のトークで大いに語り合い、「SDGs教育（ESD）」が気候や環境、新型コロナといった「複数に重なり合う地球規模の危機」に風穴を開けられるのか？そこに身体表現やダンスがどのようにかかわっていきけるのか？ダンス教育はどのように再構築し変容しなければならないのか？これらについて議論し、翌日のシンポジウムにおけるダンス教育につながるようにした。



写真5 基調講演の様子



写真6 鼎談の様子

## ■シンポジウム

11月20日（日）13：30～16：00 3号館1階 宮代ホール

テーマ：ダンス教育をめぐる境界を超え、未来へつなぐ

～多様な身体表現・コミュニケーション・SDGs教育（ESD）～

●司会・進行：猪崎 弥生（放送大学、舞踊学会会長）

●シンポジスト：

1. 「ダンスが行われる場の多様性を見つめる」 八木ありさ（日本女子体育大学）
2. 「障がい児のウェルビーイングと身体表現遊び」 大橋さつき（和光大学）
3. 「ESDから学校におけるダンスの可能性を探る」 山崎 朱音（横浜国立大学）
4. 「様々なバックグラウンドを持つ子どもたちとアーティストとの出会い  
～ダンス・ワークショップの可能性～」 堤 康彦（NPO法人 芸術家と子どもたち）

最初に八木ありさ氏には、ダンスそのものの始原の姿から近年の多様化するダンスの現象まで、ダンスの多様な機能と人々の多様性の側面から、多様性を引き込むダンス教育の可能性を示唆していたとき、後につなぐ問いかけ、ナビの役割になっていただいた。

2人目の大橋さつき氏には、障がい児支援の現場で身体表現遊びの活動を長年実践してきた大学と地域の連携による実践を紹介していただき、地域や社会のウェルビーイングの実現とインクルーシブな遊び活動の関係について提案していただいた。

3人目の山崎朱音氏には、体育という教科に位置付く学校教育の中でのダンスについて、「ESD」の視点から新たにもたらされるダンスの多様性と可能性に注目し、大学における「ESD」の実践紹介を通して学校教育の中でのダンスを問い直していただいた。

最後に堤康彦氏には、学校という枠を超えて様々な子どもたちとアーティストとの出会いの場を創出してきた活動を紹介いただくとともに、特に子どもを取り巻く厳しい社会状況の中で、ダンス・ワークショップの場を持つ可能性について提言していただいた。



写真7 シンポジウムの様子